

安全衛生教育の効果と動機づけ

今まで、日本の草の根安全教育の成果により、災害件数が減少してきたと見られることを述べましたが、どのようにすれば教育の効果を出すことができるのでしょうか。特に安全衛生教育は、受けた人であればわかると思いますが、なかなか頭に入りにくく、効果の出にくいものです。今回は、どのような時に安全衛生教育が必要と感じ、どんなときに効果は出るのか、また、必要と感じさせる動機づけはどのようにして植えつけられればいいのかについて述べたいと思います。

教育の効果があるのは

多くの方は事業場で何らかの安全衛生教育を受講されたことがあると思いますが、講師をしていると、中には就職して以来はじめて安全衛生の教育を受けるという方もいます。また、受講する方ばかりではなく講師として安全衛生教育を実施する人もいます。皆さんは安全衛生教育を受けるとき、あるいは講義をするときにどんなことを感じているのでしょうか。おそらくはどなたも同じではないかと思いますが、ぜひ受けないという意識が湧かない、会社が決めているから、あるいは法律で決まっているから仕方なく受ける場合がほとんどではないかと思います。さらに法令の話や事故の話など楽しい面白い話でリラックスして聞けるような内容や項目でないところが残念なところです。

また、講師としては、このような内容ですから、常に興味を引き付けて、面白おかしくやるということにはスキルが必要です。よっぽど工夫をして臨まないといくると困難を伴うのが普通です。私も何とか楽しく面白く話したいとは思いますが、なかなか難しく、永遠の課題のようです。

それでも、ぜひ受けない、知りたいという気持ちが強ければ、教育の効果も上がるというものです。知りたい、受講したいという意識が湧かないのは、不幸なことにその安全衛生教育を受講する動機づけが不足しているからではないでしょうか。自分が聞きたい、知りたい、受講したいと思えば真剣に聞くでしょうし、記憶にも残ります。そしてその教育の効果も大きなものがあるはずで、せつかく受ける講習や教育も効果のあるものであってほしいと思います。

教育の効果が最もあるのは、**教育の3原則**として、その安全衛生教育を必要としている人に、必要としている時に、必要としている内容を教育して初めて効果があるといわれています。一度自分に自問してみるといいでしょう。なぜ今私はこの教育を受けるのだろうか。

企業ではカリキュラムが決まっています、自動的に講習を受ける時期と対象に組み込まれているかもしれません。一種の義務として受講することになります。これでは受ける前から知りたい、受けないという気持ちがほとんど欠如しているといっても過言ではないでしょう。そのような状態の時にいくら安全の話をしてもらってもほとんど効果は期待できないでしょう。少なくとも、せつかく講義を聞きに来てくれたのですから、教育の場で、始める前に、気持ちを切り替えてもらう必要があります。これが教育の動機づけです。これができれば、この教育は自分に必要だ、聞きたいという欲求が芽生えてきます。乾いた砂地に水がしみ込むように内容が受け入れられ、欲求が満たされていくのではないのでしょうか。

人間の欲求の5段階説

安全の欲求ということを考えてみましょう。

現在自分は安全で健康であると思っている人にどのようにして自分の身を守るための安全衛生教育の必要性を認識させるか

という教育の動機付けが重要になってきます。それには「人間の欲求の5段階説」を活用すると効果的だと思います。これは米国の心理学者A.H.Maslow(1908年～1970年)が唱えた「低位の欲求が満足されなければ、より上位の欲求が生じない」というものです。

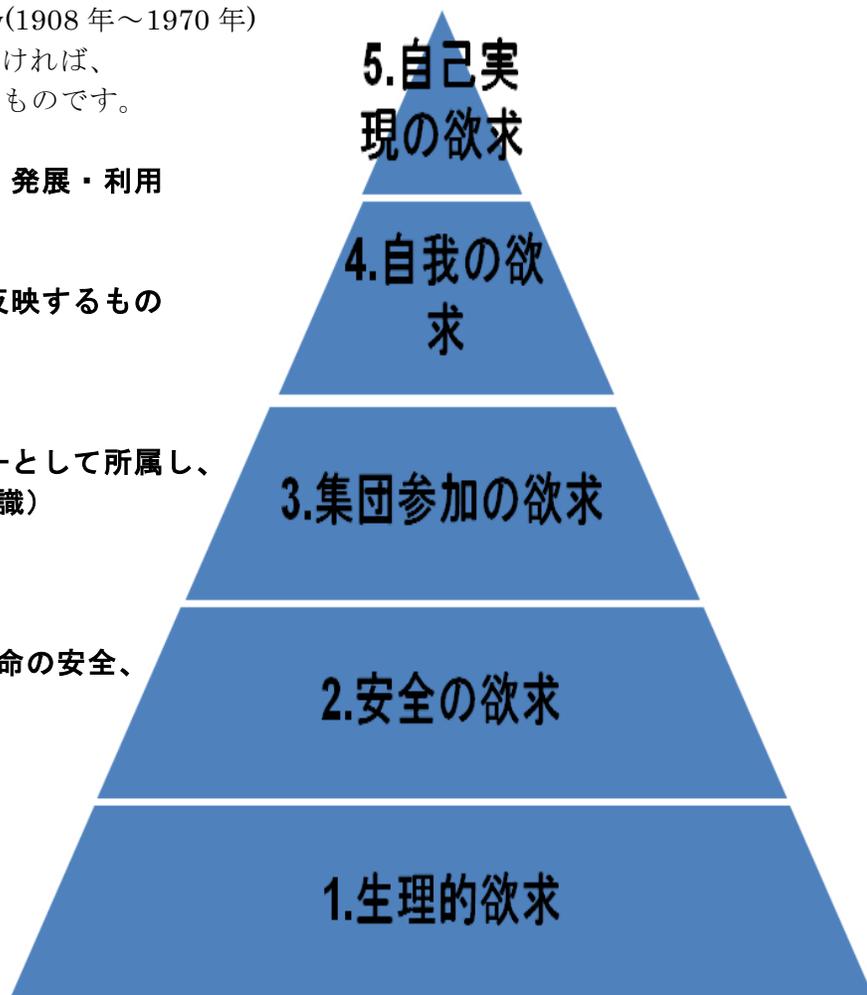
5. 自己実現の欲求：潜在能力完成・発展・利用

**4. 自我の欲求：自尊心、自負心を反映するもの
・名誉・地位**

**3. 集団参加の欲求：集団にメンバーとして所属し、
受け入れられるもの（帰属意識）**

**2. 安全の欲求：雇用、収入安定、生命の安全、
事故・怪我の危険予防**

**1. 生理的欲求：食欲・睡眠等、
生命そのものを支えるもの**



第1段階の本能や生理的な欲求すなわち食欲や睡眠などが満たされなければ次の段階の生命の安全確保という欲求は芽生えてきません。大昔の生きるために食料をとるのが中心の生活をしていた時は命も顧みず狩猟などで食物を確保していたことを見れば理解できると思います。

どの程度安全の欲求は満たされていますか。現在健康で安全な状態で会社にも行っているので、おおむね安全の欲求は満たされていると思っている方がほとんどで、強いてこの欲求を求めるあるいは望むということには意識はしていないと思います。

日本ではほとんどの人は安全の欲求は満たされている状態であり、そこへいくら安全が大事だ、必要だと言っても受け入れる余地がほとんどない状態です。あたかもおいしい料理を腹いっぱい食べた直後に今度は別のおいしいレストランへ行こうといわれるようなもので、誰も行きたいとは思わないはずで

す。満たされている状態をほんとにそうなのか、ひょっとして危ないこともあるのではないかと、意識の変革をまずすることが必要です。

安全教育の必要性

総論では安全の欲求は満たされている状態と見られますが、一部分ではまだ満たされない状態が存在していますし、これからも新たに発生してきます。たとえば、自然災害、無差別殺傷、交

通事故等自分では制御できないものもあります。しかし制御できるものとしては、労働災害要因のコントロールがあります。新しい原材料・化学物質の使用、新機能の機械・設備の使用、新工程の導入等による新たな危険、有害要因の発生、さらに自分の知らない専門的な知識や技能が必要な場合などが該当します。各論ではまだまだ安全の欲求が満たされない状況が身の回りに存在していることとなります。これらの状況をいかに自覚するか、またこれらをどのように制御しリスクを低減させるかについて安全教育が必要となってきます。

このような教育の効果と動機づけについての内容を安全衛生教育の前に展開し、受講者のベクトルを一致させることが、効果的な安全衛生教育を実施するために重要になります。

一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会東京支部

* 本資料は、東京技能者協会殿のご厚意により、当支部が、東京技能者協会殿へ提出したファイルをそのまま、当支部のホームページに掲載しているものです。